全国学力・学習状況調査結果

平成 27 年１０月

菰野町教育委員会

平成 27 年４月 21 日に、小学校第６学年及び中学校第３学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、本町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取り組みについて、以下のようにまとめました。

◆公表の趣旨◆

本町では、今年度も児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し教育施策の成果と課題検証及び改善を行うと共に、各校においても教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として、学力・学習状況調査に参加しました。

児童生徒の学力向上に向けた課題改善には､学校だけでなく､保護者をはじめ､地域の方々に本町の子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が連携して取り組むことが重要であると考えています。

そこで､菰野町教育委員会では､本町の教育改革の取り組みを更に推進し､児童生徒の「確かな学力」の育成を図るため、今年度も本調査結果資料を公表します。

本町における教科に関する調査結果の分析

小学校国語

≪強み≫

＊学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり､書いたりすることができています。
＊具体的な事例を挙げて説明している文章を理解することができています。

＜弱み＞

＊文章と図とを関係づけて読み取り、自分の考えを書くことが苦手です。
＊登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることが苦手です。

〈全体の傾向から見られる課題〉

・文章を読み、目的や意図に応じて必要な内容を適切に引用し、自分の考えを整理しながら書くことに課題があります。

《今後の学習について》

・これまでと同様、漢字の読み書きの練習を継続して行い、日ごろから文章を読み取るだけでなく、読んだ後に感想を言い合ったり、考えたことを書いたりする学習を進めていくとよいでしょう。

小学校算数

≪強み≫
＊整数、分数の計算ができていることから、基本的な計算については解き方等を理解しています。
＊グラフに表されている事柄を読み取ったり、式に表現された数量の関係を図と関連づけて理解したりすることができています。

＜弱み＞
＊二等辺三角形や平行四辺形などの図形の性質を使って事象を説明することが苦手です。
＊示された情報（比較量と割合）から基準量を求めることが苦手です。

〈全体の傾向から見られる課題〉
・もとになる量（基準量）と比べる量（比較量）と割合の関係を正しくとらえることに課題があります。
・図形の構成について、特徴をとらえて論理的に説明する力に課題があります。

《今後の学習について》
・小数点の位置に気を付けて計算の練習を継続して行っていくとよいでしょう。
・もとになる量（基準量）と比べる量（比較量）の関係を図に表し、図と対応させて割合を理解する学習を繰り返し行っていくとよいでしょう。

小学校理科

≪強み≫
＊めだかの体の特徴をとらえて雌雄を見分ける方法を理解しています。
＊水が水蒸気になる現象について、グラフを基に地面の様子と気温の変化の関係を表したグラフを読み取ることができています。

＜弱み＞
＊観察・実験器具を目的に応じて適切に使用することや、観察・実験結果を分析したりまとめたりすることが苦手です。
＊植物の適した栽培場所を判断する場合において、植物の成長の様子と日光の当たり方を関連付けて考察することが苦手です。

〈全体の傾向から見られる課題〉
・観察・実験の手順についての知識や、観察・実験の結果を整理し考察する際に、得られたデータと現象とを関連付けて考察することに課題があります。

《今後の学習について》
・観察・実験にすすんで参加し、安全に留意しながら実験器具の操作方法を学んでいくとよいでしょう。

・自然に関心を持ち、学習を通して得た知識を日常生活にあてはめて考え、書きとめる学習を進めていくとよいでしょう。

中学校国語

≪強み≫
＊文脈に即して漢字を正しく書くことができています。
＊形容詞や名詞等、単語の種別について理解できています。
＊登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することができています。

＜弱み＞
＊語句の意味を適切に理解し、文脈の中で適切に使うことが苦手です。
＊単語の類別について理解し、文章の中で果たす役割を踏まえながら品詞を分類することが苦手です。

〈全体の傾向から見られる課題〉
・伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考えたり、相手に効果的に伝わるように書いたりすることが苦手です。

《今後の学習について》
・語句についての理解を深め語彙を豊かにするために、辞書等を使って慣用句やことわざ等を積極的に調べる学習を行っていくとよいでしょう。
・書いた文章について、内容に過不足がないか、使用している語句は適切か等を確かめる学習を繰り返し行っていくとよいでしょう。

中学校数学

≪強み≫
＊加減乗除を含む正の数と負の数の計算、一次式の減法の計算ができています。
＊投影図から空間図形を読み取ったり、面の回転によって回転体が構成されることなど、空間図形の形をよく理解しています。

＜弱み＞
＊平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめ説明することが苦手です。
＊関数の表やグラフから２つの数量の関係を読み取ったり、式に表したりすることが苦手です。

〈全体の傾向から見られる課題〉
・図形の性質に着目し、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明することに課題があります。
・２つの数量の関係を表すグラフの傾きの意味を捉え、具体的な事象に関連づけて解釈することに課題があります。

《今後の学習について》

・実際にコンパスや定規を用いて図形をかいたり、立体を作ったりしながら図形の性質を自ら発見し、分かりやすく説明する学習を行っていくとよいでしょう。
・身の回りにあるともなって変わる２つの数量を表やグラフに表す学習を繰り返し行っていくとよいでしょう。

中学校理科

≪強み≫

＊物質を化学式で表したり、天気記号を読み取ったりすることができています。
＊実験の結果を表したグラフや表を読み取ったり分析して解釈したりすることができています。

＜弱み＞

＊物質の溶解度について理解し、解け残りの様子を説明したり、水溶液の濃度について計算したりすることが苦手です。
＊気温と露点の観測記録から、気温による飽和水蒸気量の変化と露点を関連付けて捉え、おおよその湿度を推定することが苦手です。

〈全体の傾向から見られる課題〉

・実験結果から規則性を見いだし、考察したことをまとめ、適切に次の課題づくりへとつなげることに課題があります。

《今後の学習について》

・実験を行って気付いたこと、疑問に思ったことをノートに書きとめるなどの学習を繰り返し行っていくとよいでしょう。
・自然の事象や現象に関わりをもち、その原理を追求していくような学習を進めていくとよいでしょう。

児童生徒質問紙調査からみられる特徴的な傾向

学校生活について

・小中学生の全体の約９割が学校の決まりを守って生活しています。
・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあると答えている小中学生の割合は全体の８割を超えています。

自尊感情の高まりについて

・自分にはよいところがあると感じている小中学生は全体の約７割います。
・難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している小中学生の割合は全体の７割近くいます。
・ほとんどの小中学生が、ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験をもっています。

良好な人間関係の形成について

・ほとんどの小中学生がいじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。ま

た、人の気持ちが分かる人間になりたい、人の役に立つ人間になりたいと思っています。

家庭での学習について

・ほとんどの小学生が家で学校の宿題をしていると答えており、中学生は９割を超えています。宿題の他に、自分で計画を立てて家庭で勉強している小学生は全体の約６割で、中学生は５割近くいます。

・普段（月～金曜日）、学校の授業時間（学習塾や家庭教師も含む）以外に、一日１時間以上の家庭学習をしている小学生の割合は全体の約５割で、中学生は全体の約６割います。

読書について

・読書が好きと思っている小学生は全体の７割近くで、中学生の割合は全体の８割近くいます。

・本を読んだり、借りたりするために、学校図書室や地域の図書館に、月に１～３回程度は行っている小学生は全体の５割近くで、中学生は全体の約１割です。

家庭生活について

・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている小学生の割合は全体の５割を超えています。中学生については８割を超えています。そのうち、一日に１時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている小学生の割合は１割を超え、中学生は５割を超えています。

地域行事への参加について

・今住んでいる地域の行事に参加している小学生は全体の８割近くいます。また、中学生については約５割で、共に高い数値となっています。

・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある小学生の割合は６割近くで、中学生の割合は５割近くいます。また、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると答えた小中学生の割合は約３割です。

学校質問紙調査からみられる本町の特徴的な傾向

① 家庭での学習について

すべての小中学校で調査対象児童生徒に対して、前年度までに、国語・算数（数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を出しています。また、児童生徒に対し、家庭学習の課題について、評価及び指導をしています。

② 自尊感情の高まりについて

すべての小中学校が、調査対象学年の小中学生に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人ひとりの良い点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しています。

③ その他

すべての小中学校が、自校の調査結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しています。また、自校の分析結果について、調査対象学年・調査対象教科だけでなく、学校全体で教育

活動を改善するために活用しています。
　すべての小中学校が、自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行っています。

町教育委員会による学校支援とその成果等の状況

[少人数教育の充実]
　少人数教育により、きめ細かな指導に取り組んできました。その結果、計算の意味や処理の仕方が定着し、基礎的基本的な力がついてきています。

[人権教育の充実]
　人権教育の取組を通して、一人ひとりを大切にし、互いに認め合える人間関係の形成をめざす教育の実践によって、児童生徒の自尊感情が高まってきています。

[家庭学習の推進]
　平成２６年度より「家庭学習の手引き」を全家庭に配付し学力向上県民運動と連動しながら、各家庭にもよびかけてきています。家庭学習の定着に向けて、今後も家庭に協力をお願いしながら取り組んでいきます。

[読書活動の推進]
　各学校に、菰野町図書館司書が訪問し、学校図書館の本の整備や、図書ボランティアとともに本の読み聞かせ及びブックトーク等を行い、心を耕す読書活動の推進に取り組んでいます。

[安心して学べる学校]
　生徒指導推進協力員やスクール相談ネットワーカーと連携をとりながら生徒指導の充実を図り、安心して学べる環境づくりを行っています。各小中学校で、子どもたちが落ち着いた状態で学習活動ができるよう、今後も取り組んでいきます。

家庭・地域の方へのお願い

＊　子どもたちが家庭で過ごす時間を有効に使い、生活リズムをつくるために、読書をしたり、テレビを見たり、ゲームをしたりする時間、テレビを消す時間帯やゲームをしない日を決める等話し合ってください。子どもたちが携帯電話やスマートフォンを使う時間や使用方法等の具体的な約束事を決めることは、有効な時間活用に加え、子どもたちを守ることになります。家庭でのルールづくりをお願いします。

＊　家庭学習の大切さについて学校におきましても指導を重ねています。昨年度に引き続き、本年度も「家庭学習の手引き」を学校を通じて配付しました。学校で学んだことを確実に身につける復習に、これから学ぶことをより理解しやすくする予習に、そして、学ぶ習慣をつけ主体的な学びができるためにも家庭学習は大切なものです。子どもたちへの声掛けや学習環境の整備等にご理解ご協力をお願いします。

みえの学力向上県民運動
学校・家庭・地域の教育力を高めよう！　みえの学力向上　検索